

## 第1回（8月） 会議録（主な意見）

○青壮年層や若者（高校生、大学生等）に企画段階から地域づくりへの参画の機会や青壮年層が自分たちの思いを具現化したりする機会を提供することで、青壮年層の参画意識を促進することが有効だと考える。

○かほく市では、地域のIT関連企業の協力を得て、プログラミングを用いた地域課題解決に取り組む人材の育成を図っている。プログラミングに慣れ親しむことから、現状を解決するためにこのようなものを作るという明確な目的意識を持った活動へと移行しており、将来的にはこの事業参加者が指導者になるサイクルを確立し、組織化を図っていきたい。

○コミュニティ・スクールの取組によって、子どもたちや学校のために地域の団体が集まり、会議の場で議論したり、一緒に活動したりすることがきっかけとなり、団体同士の連携が進んできたという話を聞いている。

○自分たちの組織を自己点検し、「できるひとが、できるときに、できることを」という原点に立ち帰り、役員の数見直しから育友会組織の活性化を図ることができた。

○緩やかな関わりを認めることで組織の強化を図っている。

○育友会のおやじの会は、自分の関心に基づいて参加することができ、「ちょっと手伝いたい」という気持ちを反映できる参加しやすい組織となっている。OBも運営に参加可能な組織で、「この指とまれ」という緩やかな関わりを大切にしてスタッフの充実を図っている。